

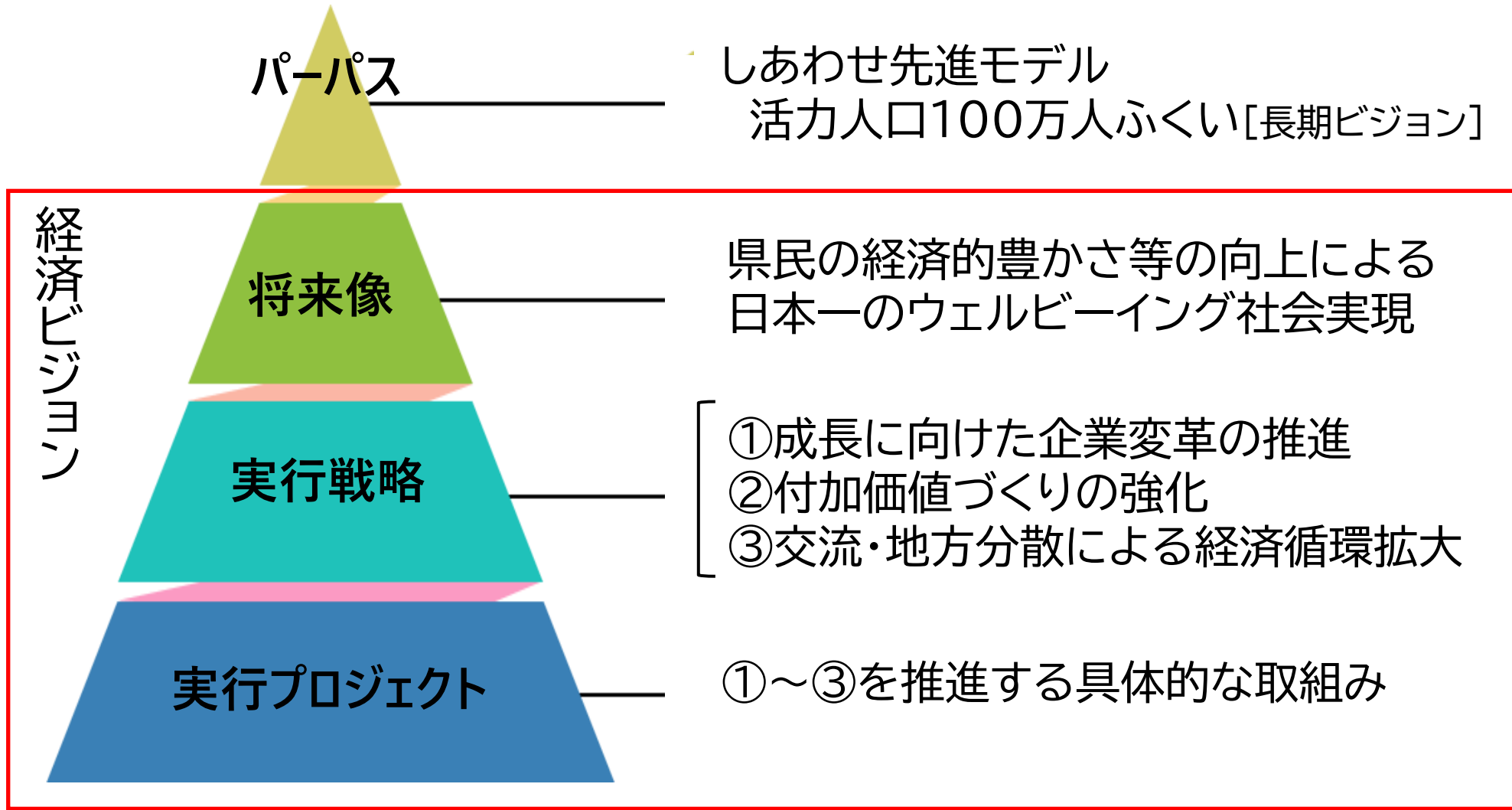
ふくい経済ビジョン(仮)

骨子案

令和4年11月

福井県産業労働部

1 ふくい経済ビジョン（仮）の構成



2 経済ビジョンの基本的考え方

<将来像>

福井県長期ビジョンに掲げる「しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい」に向けて、地域経済の成長を通じて**県民の経済的な豊かさ**を高めながら、さらに、**仕事も生活もトータルでの幸福実感**を引き上げていくことにより、**日本一のウェルビーイング社会の実現**を目指します。

そのために、未来技術に加え、人への投資を積極的に進め、県内企業の付加価値や生産性を高めながら、その恩恵を県民一人ひとりへと広げていきます。また、仕事でも私生活においても、性別や国籍等に関係なく誰もが活躍でき、安心して楽しく暮らせる経済社会をつくりあげていきます。

<実行戦略>

将来像の実現に向けて、県内企業・産業の収益力を高め、県民の経済的豊かさを向上するため、3つの戦略を示します。なお、今回の経済ビジョンは、一部の企業や経営者だけではなく、社会・経済に関わるすべての人が、自分事として取り組んでいけるビジョンを目指します。

戦略Ⅰ：成長に向けた企業変革の推進

戦略Ⅱ：付加価値づくりの強化

戦略Ⅲ：交流・地方分散による経済循環の拡大

<ビジョンの目標>

企業の収益力、県民の経済的豊かさ、県民の幸福実感に関する成果指標を今後検討

3 戦略Ⅰ 成長に向けた企業変革の推進

経済・社会情勢の変化を先取りしながら安定的に成長し続ける企業経営を実現するため、既存事業の変革と新規分野への展開の両利きの取組みを担うことができる組織力や人財の育成など、企業変革の取組みを応援

(1) ビジネスモデルの変革・強化

【検討の方向性】

- 事業の継続・発展のために必要な企業経営力をどのように高めていくか
- 脱炭素やSDGsなど、新たな社会課題への対応を、いかにビジネスモデルに取り入れていくか
- M&Aや事業承継等を通じて、いかに地域経済・産業の新陳代謝や県外企業との連携を後押しするか
- M&A後にいかに売り手・買い手双方の成長を後押しするか

(2) 人を大切にする経営の推進

【施策の方向性】

- 社員のウェルビーイングを高める働き方や健康経営などをどのように推進するか
- 賃上げや福利厚生、就労環境など、人への投資に取り組む企業をどのように増やしていくか

(3) 成長を担う「人財」の育成・活用・確保

【検討の方向性】

- 経営の後継者や中核人材をどのように確保・育成するか
- ジョブ型就労や地方兼業の活用など、新分野展開等に必要の人材をどのように確保するか
- Uターンや外国人材の活用など、労働力不足の改善をいかに進めていくか

(4) 福井型エコシステムの強化

【検討の方向性】

- 若者の起業マインドを高め、若手起業家をいかに増やすか
- ベンチャー企業や上場をめざす企業の成長をどう促進していくか
- スタートアップやベンチャーへの支援を社会全体でいかに進めるか
- 挑戦する若者への支援者をいかに拡大するか

(5) デジタル技術による企業経営の改革

【検討の方向性】

- DXをいかに企業経営やビジネスの改善・成長につなげていくか
- デジタル化に対応したイノベーション人材をどう育成・確保するか
- 都市部のデジタル人材をいかに県内に取り込むか
- 将来予想される労働力不足をいかにデジタル技術で補うか
- アナログの良さを活かしながらいかにデジタル化を進めていくか

3 戦略Ⅱ 付加価値づくりの強化

多様化・複雑化する社会や消費者のニーズをターゲットに据え、技術力を活かしたイノベーションや事業創造を通じて解決するなど、新しい時代には選ばれる「価値づくり」を進める事業者を、産学官連携により強力にサポート

(1) マーケットインの価値づくり

【検討の方向性】

- ・ 自社の技術等を活かしながら、市場ニーズに沿った商品開発をいかに進めていくか (製品主義から顧客主義への転換)
- ・ マーケットアウトの視点から、いかに潜在需要の顕在化を進めるか
- ・ 産業支援機関・研究機関の機能をどのように発展させるか

(2) 連携・共創によるイノベーションの推進

【検討の方向性】

- ・ 異業種連携によるオープンイノベーションの仕組みをどのように構築するか
- ・ 産地間・企業間の共創の仕組みをどのように構築するか

(3) G X (グリーン・トランスフォーメーション) の推進

【検討の方向性】

- ・ 企業活動や生産基盤の脱炭素化を、いつまでに、どう進めるか
- ・ サーキュラーエコノミーをいかに進めていくか

(4) ブランディング・マーケティングの強化

【検討の方向性】

- ・ 中小企業の戦略的ブランディング活動をいかに促進するか
- ・ 中小企業のマーケティング力や情報発信力をいかに高めるか
- ・ ブランド主体のビジネスモデルへいかに転換するか
- ・ ブランドマーケティングのためにいかに専門人材を活用するか

(5) 地域の特性に応じた産業強化

【施策の方向性】

- ・ 繊維・眼鏡など地場基幹産業をどのように守り、育てていくか
- ・ 超小型人工衛星の製造拠点化をどう加速化させていくか
- ・ 恐竜博物館や豊かな自然など地域資源を活かした産業強化をどのように進めるか
- ・ 嶺南スマートエネルギーエリアの創出をどのように進めるか

3 戦略Ⅲ 交流・地方分散による経済循環の拡大

交通・物流ネットワークの整備進展や地方分散の流れを活かし、観光誘客や企業誘致を強化するとともに、グローバルマーケットへの挑戦を応援し、地域経済の拡大につなげる。さらに、オンラインビジネスの進展に加え、バーチャル経済圏の拡大を見据え、場所に捉われない新たな経済マーケットを県内経済の成長に取り込む

(1) 新幹線開業等に向けた観光産業の推進

【施策の方向性】

- 新幹線開業等の効果をいかに観光関連産業の活性化につなげていくか
- 大阪・関西万博にあわせた本県産業の売込みや国内外からの誘客をいかに推進するか

(2) イノベーションを創る企業誘致の拡大

【施策の方向性】

- 高速交通インフラや新産業団地の整備を機に、どのように高付加価値産業の集積を進めるか
- 誘致企業とのビジネスを通じて、いかに県内企業の事業拡大、イノベーションを進めるか
- 安定的なグローバル・サプライチェーン・マネジメントをいかに構築するか

(3) 世界市場へのチャレンジ推進

【施策の方向性】

- 海外ビジネスの支援体制をどのように強化するか
- 敦賀港・福井港、小松空港の利便性をいかに高め、海外ビジネスを活発化するか
- 世界とのビジネス・交流拡大に資する多文化共生社会を、県内でいかに創造するか

(4) バーチャル経済圏の開拓

【施策の方向性】

- メタバースやNFTをビジネスにいかに活用していくか
- Web3対応ビジネスへの参入をどのように推進していくか

戦略Ⅰ 主要プロジェクト（１） ビジネスモデルの変革・強化

○施策の考え方

経済・社会情勢の変化に対応して、県内企業が持続的に成長していくためには、新事業への展開など成長に向けた前向きな取組みが重要です。新事業創出やマネジメントなどに関する必要なノウハウを身に付けたり、前向きな取組みに挑戦したりする経営者・企業を応援します。

○現状と課題

コロナ禍や物価高騰、円安の長期化など、経済・社会情勢が変化する中で、悪化する経営に危機感を持つ経営者が増加しています。

一方で、現状の打開策として、既存事業の強化を重視する経営者が多く、新規事業の創出に対する意欲は消極的です。

※コロナ前に比べ約3割増

商工会、 商工会議所 への相談件数	R元	63,009件
	R2	79,357件
	R3	80,853件

[出典：小規模事業経営支援事業費補助金 実績報告]

経営者が重点的に 取り組みたいこと	新規顧客開拓	54.3%
	資金繰り安定化	36.6%
	新規事業創出	20.2%

[出典：福井商工会議所アンケート調査（R3.12）]

○具体的な施策

①経営人材のスキルアップ

・～

・～

・～

②前向きな取組みに挑戦する事業者の支援

・～

・～

③事業承継による新規事業展開の促進

・～

・～

日本一のウェルビーイング社会の実現に向けて

実行プロジェクトに掲げる「人を大切にする経営の推進」や「連携・共創によるイノベーションの推進」「GXの推進」等の実行により、経済的豊かさの向上とともに、県民や地域社会が抱える課題（ミッション）の解決も一体的に進め、県民のウェルビーイング（幸福実感）向上につなげていきます。

ミッション1 全員参加型の共生社会づくり

【解決すべき課題】

- 「幸福度日本一」と評価されながら、女性の負担感の大きさや娯楽の少なさなど、県民の実感との差が生じている
- 働き方の多様化やダイバーシティ、ジェンダーレスなど、新しい価値観に応じ、企業のルールを変えていくことが必要

ミッション2 サークュラーエコノミーの実現

【解決すべき課題】

- 2050年カーボンニュートラルを実現し、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくことが企業にも求められている
- 資源やエネルギーを輸入に頼る我が国では、経済安全保障の観点から、地域循環型の経済活動への転換が必要

ミッション3 次世代ファーストの活躍推進

【解決すべき課題】

- 進学や就職に伴う若者流出が地域の活力を低下させるため、若者に魅力ある仕事を増やしていくことが必要
- デジタル技術やバーチャル技術の導入が進む中、ビジネス等の最前線でデジタルネイティブ世代の活躍が求められる
- 福井が誇る技術や伝統を、後継者不足で途絶えさせることなく、若い感性で承継・リニューアルしていくことが必要

ミッション4 便利で快適な社会インフラの確保

【解決すべき課題】

- 人口減少社会では、生活の足の確保が困難になり、市街地でも買い物難民の発生が心配される
- 新幹線開業を機に増える観光客の周遊ニーズに応えるため、観光客が気軽に使える移動手段の充実が必要
- 次世代の社会インフラとして、エネルギーやモビリティ等を地域・オフィスで賢く使う「スマートX」を進めることが必要